



＜情報科学研究科＞

参加を希望する学生は、別紙様式に記入の上、1月7日（火）までに情報科学研究科教務係へ提出してください。

宮 総 教 第 2 7 8 号

平成 2 5 年 1 1 月 2 6 日

東北大学総長 殿

宮城県総合教育センター所長

（公印省略）

平成 2 5 年度長期研修員研究発表会について（御案内）

本県の教育行政につきましては、日ごろ格別の御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、このたび別紙要項のとおり、平成 2 5 年度長期研修員研究発表会を開催することになりました。

つきましては、教職課程履修学生へお知らせ願いますとともに、参加希望学生のとりまとめについてお願いいたします。

なお、参加申込みにつきましては、別紙様式により平成 2 6 年 1 月 2 4 日（金）まで、FAXにてお知らせくださいますようお願いいたします。

担 当：研究開発班 次長 阿部 光男

T E L：022-784-3549（研究開発班直通）

F A X：022-784-3571

E-mail：research-d@edu-c.pref.miyagi.jp

- 1 目的 宮城県総合教育センターの今年度の長期研修員の研究と、旧宮城県教育研修センター、旧宮城県特別支援教育センターの前年度の長期研修員の課題解決について発表し、参加者の指導助言を得て今後の研究に生かす。
- 2 主催 宮城県教育委員会
- 3 対象 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教員（国立学校，私立学校も含む），県内，県外教育機関職員，教職を目指す学生等 400名
- 4 期日 平成26年 2月14日（金）
- 5 会場 宮城県総合教育センター

6 内容・日程

9:30		10:20		12:05		15:35
10:00		10:30		13:20		
2/14 (金)	受付	開 会 行 事	移 動	7つの分科会で発表 (別紙「分科会一覧」参照) ※ 分科会ごとに開会	昼 食 ・ 休 憩	7つの分科会で発表 (別紙「分科会一覧」参照) ※ 分科会ごとに閉会

- 7 発表者

平成25年度	宮城県総合教育センター	
	専門研究員（1年）	18名
	長期研修員A（6か月）	13名
	長期研修員B（年間25日）	10名
平成24年度	旧宮城県教育研修センター	
	専門研究員（1年）	代表5名
	長期研修員B（年間25日）	代表2名
	長期研修員C（6か月）	代表2名
平成24年度	旧宮城県特別支援教育センター	
	長期研修員A（1年）	2名
	長期研修員B（6か月）	代表1名
	長期研修員C（6か月）	代表1名

- 8 発表内容 別紙「研究主題等一覧」参照

- 9 その他 開会行事への出席者は、来賓及び平成25年度専門研究員，長期研修員の所属校校長（教頭），並びに平成24・25年度専門研究員，長期研修員

担当 研究開発班 次長 阿部 光男
電話 022-784-3549

平成25年度 長期研修員研究発表会 分科会一覧

宮城県総合教育センター

分 科 会		第 1 分科会	第 2 分科会	第 3 分科会	第 4 分科会	第 5 分科会	第 6 分科会	第 7 分科会
会 場		第 3 研修室	第 4 研修室	第 5 研修室	第 6 研修室	第 7 研修室	第10研修室	第11研修室
10:00 ～ 10:20		開 会 行 事 （第 1 ・ 2 研修室）						
10:20 ～ 10:30		移 動						
10:30 ～ 10:40		開 会	開 会	開 会	開 会	開 会	開 会	開 会
1	1 0 : 4 0 ～	長期研修 A (小)外国語活動	長期研修 A (小)国語	長期研修 A (小)教育相談・生徒指導	長期研修 A (特)聴覚障害	長期研修 A (特)知的障害	長期研修 A (中) I C T 教育	長期研修 A (小)体育
	1 1 : 0 5	菅原 研	神野 真理	高塚 裕之	南條 道也	本間 佳幸	村上 憲一	伊藤 敬
11:05 ～ 11:15		移 動 ・ 休 憩						
2	1 1 : 1 5 ～	長期研修 A (小)算数	専門研究 防災教育	長期研修 A (高)英語	専門研究 特別支援教育	長期研修 A (特)知的障害	専門研究 情報教育	長期研修 B (小)理科
	1 1 : 4 0	石垣 美樹		加藤 陽子		黒川 浩也		佐藤 智之
3	1 1 : 4 0 ～	長期研修 B (小)算数	森下 博史 高橋 健一 平岡 拓	長期研修 A (高)英語	石田 文彦 今 秀樹 茂木 純子	長期研修 A (特)知的障害	勝又 健博 加藤 英樹 千葉 孝明	長期研修 B (中)理科
	1 2 : 0 5	鈴木 章弘		高山 潤二		千葉 久美子		油谷 洋
12:05 ～ 13:20		昼 食 ・ 休 憩						
4	1 3 : 2 0 ～	専門研究 授業改善・ 学力向上	長期研修 B (小)国語	専門研究 教育相談・ 生徒指導	H24旧特セ 長期研修 A	長期研修 A (特)自閉症・情緒障害	長期研修 B (小)図画工作	専門研究 理科教育
	1 3 : 4 5		千葉 一樹		鈴木 れい子	一戸 由紀子	針生 克之	
5	1 3 : 4 5 ～	本田 正晴 三塚 隆洋 相澤 洋之	長期研修 B (小)社会 鈴木 健太郎	武山 雅志 紺野 知子 鈴木 純	H24旧特セ 長期研修 A 山路 祐太		長期研修 B (中)技術・家庭	五嶋 理 黒澤 かな子 齋藤 義彦
	1 4 : 1 0						小形 潤矢	
14:10 ～ 14:25		移 動 ・ 休 憩						
6	1 4 : 2 5 ～	長期研修 B (中)数学	H24旧研セ 専門研究 防災教育	長期研修 B (高)英語	H24旧特セ 長期研修 B	H24旧研セ 長期研修 B	H24旧研セ 専門研究 情報教育	長期研修 B (小)体育
	1 4 : 5 0	千葉 博	代表者	佐藤 英明	代表者	代表者	代表者	三浦 洋司
7	1 4 : 5 0 ～	H24旧研セ 専門研究 授業改善・学力向上	H24旧研セ 長期研修 C	H24旧研セ 専門研究 教育相談・生徒指導	H24旧特セ 長期研修 C	H24旧研セ 長期研修 B	H24旧研セ 長期研修 C	H24旧研セ 専門研究 理科教育
	1 5 : 1 5	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者
15:15 ～ 15:35		閉 会	閉 会	閉 会	閉 会	閉 会	閉 会	閉 会

※ H24旧研セは平成24年度旧宮城県教育研修センター、H24旧特セは平成24年度旧宮城県特別支援教育センターの略

※ 平成24年度旧宮城県教育研修センターと旧宮城県特別支援教育センターの専門研究、長期研修B・Cの代表者は後日決定

平成25年度 長期研修員研究発表会 研究主題等一覧

< 平成25年度 宮城県総合教育センター 専門研究 >

研究領域	専門研究員氏名 (所属校)	研究主題・副題 研究の概要
授業改善・ 学力向上	本田 正晴 (柴田町立槻木中学校) 三塚 隆洋 (大崎市立古川第二小学校) 相澤 洋之 (石巻市立石巻小学校)	児童生徒の学力向上を目指す授業改善 ー 「記述する力」を高める授業支援プランの作成を通して ー 全国学力・学習状況調査の結果分析から、記述して解答する問題に対する正答率が低い状況が続いていることが明らかになっている。本研究は「記述する力」を高めることを通して、児童生徒の学力向上を目指していく。その具体的な手立てとして、小学校・中学校の9年間で「記述する力」を段階的に高めるための系統表、記述する場面を意図的に位置付けた授業アイデア例を作成し、授業支援プランとして提案することで授業改善を目指すものである。
理 科 教 育	五嶋 理 (角田市立金津中学校) 黒澤 かな子 (加美町立中新田中学校) 齋藤 義彦 (栗原市立若柳小学校)	目的意識をもち観察、実験に取り組む理科授業 ー 小学校との接続を意識した学習課題の提示を通して ー 本研究は、中学校理科において、小学校との接続を意識した学習課題の提示を行うことによって、生徒が目的意識をもち観察、実験に取り組む授業づくりを行うことをねらいとし、実態調査を基に学習課題の提示の在り方を探るとともに、授業実践を通してその有効性を検証した。その成果を「目的意識をもち観察、実験に取り組むみやぎの理科授業づくりー3つの提言ー」としてまとめるとともに、「学習課題提示・ワークシート集」を作成した。
教育相談・ 生徒指導	武山 雅志 (塩竈市立第三小学校) 紺野 知子 (気仙沼市立津谷中学校) 鈴木 純 (宮城県石巻北高等学校)	児童生徒一人一人の人間関係を構築する力を高める指導の在り方 ー サポートシートの作成と活用を通して ー 少子化や情報化等を背景に、児童生徒が様々な人と関わる場や機会が減少し、社会性等が育ちにくい状況にある。そのため、学校教育において、児童生徒が他者と関わる経験を積み重ねられるよう一層求められている。本研究は、児童生徒一人一人の人間関係を構築する力を高めるためにサポートシートの作成と活用を通して、個と集団に応じた指導・援助の在り方を探究するものである。
情 報 教 育	勝又 健博 (石巻市立中里小学校) 加藤 英樹 (登米市立米山東小学校) 千葉 孝明 (宮城県鹿島台商業高等学校)	児童生徒の情報活用能力の育成 ー 「みやぎ情報活用能力育成プラン」の提言を通して ー 現代社会において、児童生徒の情報活用能力を育成することが重要性を増している。各学校においては、情報教育に関する、より体系的な指導計画を作成することが喫緊の課題となっている。本研究は、児童生徒に身に付けさせるべき情報活用能力の具体的な内容を検討し、到達目標の一覧と授業モデルを「みやぎ情報活用能力育成プラン」として提言することで、児童生徒の情報活用能力を更に向上させることを目指すものである。
防 災 教 育	森下 博史 (岩沼市立岩沼中学校) 高橋 健一 (亘理町立荒浜中学校) 平岡 拓 (宮城県石巻好文館高等学校)	自然災害発生時に、自分の命を守り抜く児童生徒の育成 ー 「みやぎ防災トレーニングパック (仮称)」の 開発と活用の提言を通して ー 我が国における防災教育では、いつ発生するか分からない自然災害から自分の命を守り抜く児童生徒の育成が求められている。本研究は、児童生徒に自然災害に関する知識の定着を図り、その知識を基に自らの身を守るための判断や行動を考えさせる機会を提供する「みやぎ防災トレーニングパック (仮称)」を開発し、その活用を提言することで、自然災害発生時に、自分の命を守り抜く児童生徒の育成を目指すものである。
特別支援教育	石田 文彦 (宮城県立名取支援学校) 今 秀樹 (宮城県立山元支援学校) 茂木 純子 (宮城県立古川支援学校)	特別支援学校高等部における就労支援の充実を目指して ー 就労支援の現状及び進路状況の調査結果に基づく提案 ー 障害のある生徒が学校卒業後に、社会的・職業的自立を図ることは、共生社会の実現に向かうための大切な要素である。近年、「福祉」から「雇用」への移行も増加傾向を示し、障害者の働く場が広がってきている。特別支援教育においては、職業指導の充実等が学習指導要領で位置付けられ、高等部を中心に今後ますます働くことを意識した指導が求められる。本研究では、特別支援学校高等部における就労支援及び卒業後の進路状況について調査を行い、現状と課題を明らかにするとともに、就労支援の充実を目指した課題の改善策を提案する。

< 平成25年度 宮城県総合教育センター 長期研修A >

教科・領域	専門研究員氏名 (所属校)	研究主題・副題
(小)国語	神野 真理 (蔵王町立宮小学校)	多様な書き表し方を身に付けて自らの文章に生かすことができる児童の育成 － 中学年「読むこと」と「書くこと」の関連を図る言語活動の充実を通して －
(小)算数	石垣 美樹 (多賀城市立多賀城小学校)	身に付けた知識や技能を 算数の学習に活用しようとする態度を育てるための一試み － 表現する活動と「ふりかえりマップ作り」を取り入れた授業を通して －
(特)自閉症・ 情緒障害	一戸 由紀子 (名取市立増田西小学校)	Aさんが、気持ちを切り替えながら、 友達と遊びを続けられることを目指す指導の一試み － 勝敗のある遊びにおいて、 ソーシャルスキルトレーニングを取り入れた支援の工夫を通して －
(中)ICT 教育	村上 憲一 (大郷町立大郷中学校)	音楽を主体的に鑑賞する能力を育てる学習活動の一試み － 楽曲の構造を理解し、音楽によって喚起されるイメージを映像で表す、 ICTを活用した学習活動を通して －
(小)外国語 活動	菅原 研 (大崎市立古川第五小学校)	積極的に自分の思いを伝えようとする児童を育成するための一試み － 関わり合う喜びを味わわせ、活動への満足感を覚えさせる指導を通して －
(小)教育相談 ・生徒指導	高塚 裕之 (東松島市立大曲小学校)	望ましい人間関係を構築していく中で、 一人一人の自己存在感を高めるための一試み － SST, SGEと「サンサン会議」の振り返りを充実させる実践を通して －
(小)体育	伊藤 敬 (登米市立登米小学校)	走る運動を楽しむ児童の育成を目指した体育科指導の一試み － 第2学年「体を移動する運動遊び」における 一定の速さで走る運動遊びを通して －
(特)知的障害	千葉 久美子 (南三陸町立歌津中学校)	Bさんが調理実習の場面で、 自分で献立を考えて活動に取り組むことができるための指導の一試み － 今までの経験を生かし、条件に合わせて決めることを 繰り返し行う指導プログラムの工夫を通して －
(高)英語	高山 潤二 (宮城県仙台第一高等学校)	話す活動に意欲的に取り組ませる英語Ⅱの指導の一試み － 指導計画、話す活動、評価の工夫を通して －
(高)英語	加藤 陽子 (宮城県村田高等学校)	情報や考えなどを理解し伝える力を育成する指導についての一試み － 実際の使用場面を想定したCAN-DO リスト形式の到達目標と、 言語活動の工夫を通して －
(特)聴覚障害	南條 道也 (宮城県立聴覚支援学校)	Cさんが動詞の語いを理解するための指導の一試み － スモールステップに配慮したプログラムや学習カードの工夫を通して －
(特)知的障害	黒川 浩也 (宮城県立光明支援学校)	Dさんの生活スキルの向上を目指した清掃指導の一試み － 一人でできるようになるための教材・教具や場の設定の工夫を通して －
(特)知的障害	本間 佳幸 (宮城県立利府支援学校)	Eさんが他者と関わりながら意欲的に活動に取り組むための指導の一試み － ビーズストラップ作りにおける教材・教具、場面設定の工夫を通して －

< 平成25年度 総合教育センター 長期研修B >

教科・領域	専門研究員氏名 (所属校)	研 修 テ ー マ ・ 副 題
(中)技術・ 家庭	小形 潤矢 (白石市立東中学校)	技術的問題解決力を育成する学習指導の展開を目指して － 製作活動における学び合いから 最適解を導き出させる指導の工夫を通して －
(中)理科	油谷 洋 (角田市立北角田中学校)	考察を深めさせ、科学的な表現力を育成する中学校理科授業を目指して － 考察場面における段階的な発問の構成を通して －
(小)算数	鈴木 章弘 (利府町立菅谷台小学校)	児童が進んで問題解決に取り組む授業を目指して － 児童が問いを抱き、見通しをもって考え、 思考を広げ深めるための指導の工夫を通して、－
(小)図画工作	針生 克之 (富谷町立あけの平小学校)	児童の表現したいという思いを育て、絵画表現力を高める授業を目指して － 宮城の伝統工芸品を題材とした対象物の形と色 正確にとらえさせる指導の工夫を通して －
(中)数学	千葉 博 (大崎市立三本木中学校)	生徒が意欲的に課題解決に取り組む授業改善の一試み － 既習事項を活用し、自分の考えを表現する活動を通して －
(小)国語	千葉 一樹 (石巻市立住吉小学校)	自分の思いや考えをもち、伝え合うことのできる授業の一試み － 国語科における「書く活動」を通して －
(小)理科	佐藤 智之 (登米市立米岡小学校)	児童が科学的な見方や考え方を身に付ける授業を目指して － 第4学年理科における、言語活動を位置付けた授業を通して －
(小)社会	鈴木 健太郎 (登米市立新田小学校)	児童が習得したことを活用し 生き生きと表現することができる社会科の授業を目指して － レディネス学習を取り入れた授業づくりを通して、－
(小)体育	三浦 洋司 (南三陸町立志津川小学校)	できる喜びを味わわせながら、技能を高める授業を目指して － 第4学年体育科における学び合いの工夫を通して －
(高)英語	佐藤 英明 (宮城県亘理高等学校)	コミュニケーション能力を育成する 英語発信力を高める指導法の確立を目指して － 相手の意思を理解しながら自分の意思を伝える活動の工夫を通して －

別紙（大学用）

（ファクシミリ施行）

（総合教育センター FAX番号 022-784-3571）

あて先 宮城県総合教育センター所長 殿 (研究開発班 阿部 光男 扱い)	件名 平成25年度 長期研修員研究発表会の 参加について	発信 平成 年 月 日 大学名 学長名
--	---------------------------------------	---

平成25年度 長期研修員研究発表会 参加申込書（大学）

担当課係名

担当者

電話番号

	学 部 ・ 学 科 等	参 加 者 氏 名	希望分科会	備 考
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

※ 希望分科会の欄には、主に参加を希望する分科会番号を記入してください。